

12.14 新小岩地域集会 盛大に開かる

＝不当処分粉碎・1億円基金運動の声高まる＝

新小岩地域集会は、十二月十四日、十八時より、江東総合区民センターに組合員・家族会
四二名、区労協や地域の仲間三二名の結集をもって開催された。

敵をズタズタに揺さぶった第一波スト
— 関支部長が確信に満ちた挨拶 —

集会は、清水書記長の司会で始まり、主催者を代表してあいさつにたった関支部長は、反動の嵐は止どまることなく押し寄せてきているが、それを阻止するために動労千葉は、十一月末第一波闘争に決起した。「分割・民営化」策動が進行している状況の中での二四時間ストを打ちぬいたことは、敵の側をズタズタに揺さぶり「分割・民営化」の本質をさらけ出した意義は大きい。中曽根・杉浦は、ゲリラとストライキを連動させ、大量不当処分をかけようとしている。一人の首切りも許さず、第二波・第三波ストをも辞さず「分割・民営化」阻止にむけて断固闘うと力強い決意表明があった。

各界から連帯の挨拶と支援カンパ

続いて、来賓として、葛飾区労協事務局長の梯氏、東部破防法裁判闘争を支える会の石川清氏、墨教組梅若小分会や部落解放同盟江戸川支部長・中山重夫氏からの激励文の紹介と集会参加者より関支部長へ「一億円基金」カンパが手渡された。

そして、特別報告として津田沼支部・山下幸支部長から、闘争拠点からの報告と第二波も津田沼支部が先頭で闘いぬくという固い決意が表明された。参加者は、この決意に割れんばかりの拍手で応えた。その後、中野委員長の話に入った。

勝利の確信高く、更に第二波を闘い
— 中野委員長が講演 —

中野委員長は、二八ノ二九ストは賛否両論あるが、非常に意義のある闘いであり、勝利的総括は、ストを断乎やりぬいたことである、と確信燃えて提起した。三人に一人が首を切られようとしている今、闘いをやらない方がおかしいのである、労働組合として、組合員を守ることが重要である。何故、ストを闘ったかとして、第一に、このままヤミクモに進んでしまえば赤字Ⅱ国鉄労働者のせいというキャンペーンに敗けてしまう。第二に「分割・民営化」を行うために政府・財界が計画に行ってきた中、国鉄労働者がそれに反対する闘いを構築できなかったこと。第三に「分割・民営化」は、あたかも決ったかのように進められてい



国鉄「分割・民営化」阻止、5000万署名貫徹
12.14 新小岩地域集会

幕張支部で新体制発足
— 白井前支部長から滝口新支部長へ —
幕張支部は、一九八五年度役選を実施し、新体制を確立した。
永い間、支部長を勤めた白井前支部長は、組織内の強化はもとより、地区・地域への運動の拡大に全力を注ぐという立場から、滝口支部長に交代しました。

新執行体制

- | | | | |
|------|--------|-------|----|
| 支部長 | 滝口 誠 | 運修 | 42 |
| 副支部長 | 白井 博 | 検査 | 44 |
| 書記長 | 石幡 佳和 | 運修 | 32 |
| 書記次長 | 川崎 秀二 | 事務 | 31 |
| 執行委員 | 秋葉 忠夫 | 検査 | 42 |
| “ | 加藤岡 英夫 | “ | 43 |
| “ | 成毛 正克 | 運修 | 43 |
| “ | 神林 邦章 | 電運士 | 44 |
| “ | 新井 孝 | “ | 35 |
| “ | 高橋 栄 | 運修 | 31 |
| “ | 江沢 秀樹 | “ | 28 |
| 特執 | 青年部長 | 伊藤 俊彰 | 運修 |
| “ | 検査検修分科 | 林 熊吉 | 検査 |